

# 誠実に ひたむきに 12年

市議会議員 **久永かずえ**

**もっと子育てしやすい大府へ**  
子どもたちに注ぐ優しさをすべての人に

「子どもとかかわる仕事をした  
い」と思い学童保育指導員の職に。  
そして自身の4人の子育て。その経  
験も生かし「子どもたちにより良い  
学習環境を」と願う市民の声を市  
政に届けてきました。

**「マンモス校の解消は一刻  
を争う問題です」。**  
〈2007年9月議会〉

2007年、初めて市議会へ出  
していただき、本会議質問2回目の9  
月議会で、私は大府小学校などの「マ  
ンモス化」問題を取りあげました。  
児童が増えた大府小の運動場の  
1人あたり面積を1とする最大  
の共和西小は5・2。この教育環境の  
差を、やがて子どもは減る」と放置  
はできない。子ども時代をどう過ご  
したかは、その子の一生に関わる…。

**「パソコンよりもエアコンを  
全教室に」。**  
〈2017年9月議会〉

その07年市議選で共産党は「全小  
中学校にエアコンを」と公約に掲げ、  
私も実現に頑張ると訴えました。  
10年9月議会、14年9月議会と  
くり返し「エアコン設置を」と質問

初当選・初議会・初質問は、20  
07年の6月議会。当時の循環バス  
の運行改善を取りあげ、「日曜日や祝  
日も運行を」「夜間に1便増発を」など、  
市民の声にもとづく改善策を提案し  
ました。  
その後もくり返し、合わせて6回  
の本会議質問で、バス改善を求めて  
きました。

**「もっと利用しやすい『ふれ  
あいバス』に改善を」。**  
〈2007年6月議会ほか〉

実際にバスを利用する人々が、ど  
のように感じておられるのか。私は  
バス停で、また自分も乗客になっ  
て車内で、利用者の方にじかにお  
話をお聞きしました。その生の声  
を質問で市政に届け、くらしに欠か  
せない移動手段を、とくに自家用車  
を使用しない〈できない〉人たち  
の目線でどうしていけばいいのかと  
考え合ってきた12年でした。今回、  
JR駅に発着変更・名鉄線との連絡  
改善など前進しましたが、さらに利  
用しやすく、と思います。

**いのちとくらしに寄り  
添って**

高い国保税を払えず滞納整理機構  
に回された市民からの相談で、半田  
市の同機構と一緒に行き「何しに来た  
か」と言われながら最後まで付き添っ  
たことも。

知多5市で一番高い水道料の問題を  
18年12月議会で資料〈左表〉も示し  
て質問。とくに生活困窮世帯に対し  
ては、福祉のサイドから減免措置を  
している他自治体が現にあることを  
調べて「大府市でも実施を」と求め  
ました。  
いつでも、弱い立場の人びとに寄  
り添える議員でありたいと思います。



巡回バスの停留所で利用者からお話を伺いました。〈上の写真、左が久永〉



市民の声を聴くアンケートを実施。結果をまとめて「市政運営の参考に」と市長〈右端〉に届けました。〈左端が久永、その右は長坂よしのり党市政政策委員長〉

平成28年度愛知県内 水道事業経営分析表より  
一か月20㎡当たりの家庭料金比較表

市	水道料金
大府	2800円
常滑	2311円
東海	2260円
知多	2100円
半田	1900円

2018年12月議会で示した知多5市の水道料金比較一覧。

# アベ政治 ホントに許せません!

市議会議員 **久永かずえ**

## ウソのない政治と一緒に

### 市民十野党の共闘で希望の明日へ

市議会議員の仕事は、何よりもまず市民の声を聴き、このまちのくらしが少しでも良くなるように市行政に働きかけ、改善・改良を進めていくことだと思います。

でもそれだけではありません。市民のくらしを苦しめる大本にある国の政治の問題点について「国のことだから」と見過ごさず、悪政にはノーとしつかり声をあげること。これも市民から選ばれた議員の大事な仕事・役目だと思っています。

#### 放射能から子ども命と健康を守る緊急策を

〈2011年9月議会〉

2011年の東日本大震災、福島原発事故は、私個人としても大変な衝撃でした。とくに放射能というもの、一旦漏れ出したら今の人類

の力ではどうしようもない。この現実には直面して、いてもたってもいられない思いにかられました。私は議会質問で、とくに子どもたちの命と健康を守るためヨウ素剤を確保する、放射能の測定体制をとる、などの緊急対策を求めました。

福島の被災現地にも行き、今も避難生活を強いられ続ける現実に、胸を締め付けられる思いでした。原発事故という人災。そこにまともに向き合わず「原発依存・再稼働」と平気で口にする安倍政権。今とこれからに生きる子どもたち、市民への責任感のカケラでもあるのかと怒りがこみ上げます。

その政権あげての原発ビジネスも相手国が次々導入中止を決め行き詰まりに。原発依存に見切りをつけること。再稼働などはもちろん論外。自然エネルギー活用へ政策転換をと私は引き続き声を大にして求め続けます。

#### 自衛隊員を戦場になど決して行かせたくない

憲法9条に自衛隊を書き込んで正式な軍隊にし世界中の戦場へ送る。その隊員確保のため自治体に適格者名簿提出を強要する。批判的なメディアを排除し黙らせようとする：安倍政権の危険な動きに黙ってはおられません。自衛隊員の若い命を散らせようとするアベ政治を、私は命を産む母の一人として、絶対に許すことができません。



ともに市政をめざす長坂よしのり党市政政策委員長とともに街頭から訴える久永かずえ市議（左から4人目）



東日本大震災の被災地を訪ねました。



市民の声をじかに聞く久永かずえ（左）

## アベ政治への態度は…

大府市議会	賛成	反対
「安保関連法案」は国民の理解が得られるまで採択するなど国に意見書を出すことを求める市民の請願 〈2015年9月〉	久永 9人	自民 10人
「共謀罪法案」の徹底審議で廃案にするよう国に意見書を出すことを求める市民の請願 〈2017年6月〉	久永 8人	自民 10人

〈賛否同数で議長裁決に〉



#### 今の経済状況で消費税の10%増税はありえません

私たち共産党でお願いした「市民アンケート」では、日々のくらしが依然と比べ「楽になった」とのお答えが4%ほど。大半が「変わらない」「苦しくなった」で「楽になった」と言えないというご回答でした。

消費税8%増税で落ち込んだ家計消費が、いまだ「水面下」から回復できず、働く人の実質賃金もマイナス：安倍政権の失政が大府市民のく

# 人びとの幸せが自分のしあわせ

市議会議員 **久永かずえ**

## 人々の和を大切にしている人

### 将来の夢は美容師さん

私は宮崎県の小林市で生まれ、やがて移った都城市で小学校から高校まで過ごしました。3人姉弟で私が長女。すぐ下に年子の弟がいて、妹とは9歳違いです。年の近い弟とはよく一緒に遊び、野山を駆けまわる元気な子供でした。

美容師さんにあこがれて、中学を出たら修行の道へと思っていましたが、叔母に止められました。「高校は出ておいた方が将来の職業選択の幅が広がるから」と。

そんなものかと思いつき、地元で入れそうな高校の家政科へ進学。こ



学童保育の夏のキャンプで。〈左端〉

こでの勉強は楽しくて、洋裁とか調理実習とかにハマりました。アルバイトでお金をためて、当時で数万円もしたオーブンを買い込みクッキーなどお菓子作りをせっせとやっていました。父は調理師で、そのDNAのせいだったかもしれない。

### 愛知県へ一家で転居

私の高校卒業を機に、わが家は九州を引き払いこの地に転居してきました。父はそれ以前から単身で刈谷市の仕事先に「出稼ぎ」に来ていました。総菜屋が長時間の仕事で実入りは少なく、家計を支えるためでした。「でもやはり、家族バラバラはいかん」——父も決断しての移住。私は製菓工場に職を得、弟妹は転校となりましたが、こうして愛知県に住み、大府市で市議会議員を務めるようになるのは、何かしら不思議な



2007年の初め、市議選初出馬に備えていた頃の久永かずえ。まだ1歳ちよつとだった3男とともに。

縁と感慨のようなものを覚えます。

「かずえ」は「和枝」と書きます。亡くなった夫と考えて名付けました。人々との和を大切に、人々をつなぎあうような人間になれ、という願いからです。丈夫に生まれ、いま皆様の幸せを願い和〈輪〉が広がるようにと日々努力する、名前のように育った娘です。どうか4期目も倍旧のご支援を、よろしくお願いいたします。

母・瀬戸山ミツエ

## 日本共産党とともに生きてきて

### 学童保育と出会って

製菓工場に3年ほど、歯科医院で助手を7年ほど。28歳になった私は、子どもと関わる仕事がしたいと思い立ち、学童保育の指導員の職に就きました。親が働きに出て留守の家庭の児童と放課後、一緒に学び、遊び、生活する学童保育の仕事に、やり甲斐を感じました。

その指導員仲間の交流の中で、やがて夫となる久永健介と出会いました。彼は早くから共産党の活動をしていて、私が共産党とともに生きていく扉を開いてくれることに。当時、父が病死するという私にとっても大きな人生の節目がありました。一



七五三のころ。左が1歳下の弟。



中学生の頃。



歯科助手時代〈右〉

生続けたいと思える仕事と生涯の伴侶と、両方に出逢う転機でした。

### 市議選出馬は突然に

前任の村上敏彦市議から「跡継ぎに」とお話があったのは、06年の初めでした。その前年暮れに3男が生まれたばかりで、さすがに迷いました。でも、だからこそ、同じ子育て世代の悩み、願い、グチのような生の声を自分の言葉と思いで市政に届けられる——それならできるかも、と思いました。夫は「自分で決めて、決めた以上は揺るがずやるんでしょ」と見守ってくれました。確かに、こうと決めたら曲げない「頑固さ」が自分にはあると思います。

### 市民が主人公を貫いて

議会という初めての世界。議員は議論するはずなのに黙って座っているだけの人がいる。「女は子育てしている」と街頭でさえ悪罵を投げつけてくる議員もいる。驚くこともありました。

でも、共産党の議員でよかつたこと、そして共産党だからこそ市民の声を届けて真つすぐに努力してこられたと、しみじみ思います。それは、政党として女性を差別したりが一切なく、一人ひとりの自由な発想、発言を完全に保障し、何より住民本位を貫いてブレない党だからです。しかも将来にわたる基本方針〈党綱領〉を持ち、政策の実現へ議員の構成が変わっても党として責任持ち継続努力する。これが私なりに思う共産党の良いところです。

この党とともに19年。うち12年を過ごす議員という分野で、私はこれからも皆さんのお役に立ちたいと思います。久永かずえを4たび、どうか市政に送ってください。